

第一回運営・編集合同委員会記事

十一月十七日夜、本年度第一回の委員会を開きました。出席は、中野卓・島崎稔・高山隆三・安原茂・柿崎京一・蓮見音彦。

「編集委員会関係」。年報第六集の編集につき協議しました。す

でに、大会の際の委員会で、第六集を「近畿北部農山村の村落社会」の特集という形で、大会での報告者の方々に寄稿していただくことをきめ、すでにそれをお願いしていますが、この他に会員から公募にもとづき、一、二篇の寄稿をお願いすることとしました。

この分の選定は一月中旬の次回委員会で行なうこととし、それまでに公募の事務をすすめることをきめました。この分の公募については、この研究通信第一頁に発表してあります。なお、公募分は、特集テーマと関係なく自由にテーマを選んでいただくことを確認しました。つぎに、大会での共同討議については、今回は年報に収録しないこととしました。また、研究動向の執筆者についても協議し、それぞれの方に早速お願ひすることとしました。執筆をお願いする方々のお名前は御承諾いただいた上で、研究通信に発表しますので、抜刷送付など会員の方々の御協力をお願ひしたいと思います。

かねて準備をすすめてきた研究叢書第一巻が明春一月に刊行され、今後年一巻宛程度刊行をすすめることのがぞましいので、さきに福武委員の下に申込まれた方々について、第二巻の編集の備案をすすめることとしました。

「運営委員会関係」。事務局のひきつきが行なわれたことが報告

され、今年度は東京学芸大学に年報編集事務を含めて経常の事務局をおき、大会は東北大学のお世話によって開催することを確認しました。なお、委員会開催の便宜上、今年度は運営委員会と編集委員会の合同委員会を原則とすることとし、両者で協力して事務処理に当ることをお願いしました。

○関西学院大学より送附されてきた決算報告（前頁参照）について承認し、大会特別会計の一般会計による充当は、すでに一般会計の決算がすまされているため、四五年度会計から充当することとした。

○東北大塚本委員からの連絡により、現在のところ東北大学としては、明年的大会をほぼ例年通りの日本社会学会大会の前に、宮城県周辺において開催することを考えていることが紹介されました。明年の村研大会の共通課題は、今年の課題として予定された「村落社会研究の方法」とすることと決定しました。この課題をどのような意味でとりあげ、どのように論議していくかについて、委員会の席上若干の意見交換が行なわれましたが、重要な問題であるので、会員からの要望をきくとともに、大会に先だって研究会を何回かひらいて逐次つみあげてゆくこととなりました。そして、課題の扱い方の大筋をさだめ、その後の研究会のすすめ方などについて検討するため、明春一月十七日(土)に第一回の研究会を開くことを決定しました。この研究会は、会員多数の参加をもとめ拡大運営委員会といつた意味で、課題のとり扱い方について協議することを予定しております。